



## ロバパンカップ 第55回全道(U-12) サッカー少年団大会札幌地区予選

全道大会進出おめでとう!!

KE・クラブフィールズ U-12

札幌ジュニア

FC Kitago PIVO アズベルテ

FC リベルタ豊平

SSS 札幌サッカースクール

FC TIPS FIBRA FC U-12

北海道コンサドーレ札幌 U-12

FC DENOVA 札幌 西野第二

札幌地区代表を目指して各会場で熱戦が繰り広げられました。上記10チームが全道大会に進出しました。全道大会は、7月末に札幌市 SSAP 他で開催。札幌代表チームの健闘が光りました。

7月2日(日) 江別美原 Aブロック

KE クラブフィールズ U-12

FC 北野ステラポラーレ

3

0-0

0

3-0

ピッチの状態も良く、穏やかな風が吹く中、FC北野ステラポラーレのキックオフで決勝戦が始まる。

前半5分、FC北野キーパーからのロングフィードを5番が受けシュートまでいくも相手ゴールキーパーにセーブされる。

前半6分、今度はKE・クラブフィールズ13番が左サイドをドリブル突破しゴールキーパーもかわしたがボールはゴールラインを割ってしまう。さらに13番は、前半7分、8分と続けてミドルシュートを打つがゴールの枠を外れる。

前半11分、FC北野に決定機が来る。クラブフィールズの後方での連携のミスからFC北野10番がゴ

# きずな

ールキーパーからのボールを奪いシュートするがポストに当たる。はね返りを5番もシュートするが、相手ゴールキーパーがなんとか戻り防いだ。

前半19分、フィールズ10番がシュート、FC北野の守備に連続でブロックされそのこぼれ球をフィールズ7番がシュートもゴールキーパーがセーブ。両チームとも互いに得点を許さずハーフタイム。

後半、開始直後からクラブフィールズが攻勢をかけシュートを打つが、FC北野の守備陣が耐える形で得点を許さない。

後半9分、FC北野が右サイドからフリーキックのチャンスを得る。11番が10番の頭に合わせるもミートせず得点ならず。

後半11分、フィールズ5番がハーフライン付近中央から相手ディフェンスの裏にボールを送る。そこに9番が走り込みダイレクトでシュート、ゴールキーパーが前に出るも防ぐことができずゴールが決まり、ついにクラブフィールズが先制点を奪う。

後半14分、フィールズ9番がペナルティーエリア中央付近でボールを受け個人技で相手2人をおかわし右足でシュート、ボールはゴール左隅へ決まった。

反撃したいFC北野は、カウンターから攻撃を試みるがフィールズの堅い守りがそれを阻む。

最後まで攻め続けるクラブフィールズ、後半19分に左コーナーキックからゴール前のこぼれたボールを13番が決め、3対0で試合が終了。KE・クラブフィールズU-12が全道大会進出を決めた



7月2日(日) SJ 駒丘人工芝 Bブロック		
北海道コンサドーレ 札幌 U-11	札幌ジュニア	
0	0-1 0-1	2

小雨が降る中、SJ 駒丘人工芝で Bブロック札幌地区代表決定戦がキックオフ。

開始早々から札幌ジュニアは相手にハイプレッシャーをかけていった。北海道コンサドーレ札幌 U-11 は、慌てることなく相手の動きを見て判断し、自分たちのパスを繋げ少しずつ前進していった。札幌ジュニアは、相手チームの卓越したビルドアップ技術を上回る予測力、スピード、パワーで対抗した。

前半 3 分、札幌ジュニアは、2 番がハーフライン中央でボールを奪い浮き球のスルーパス。抜け出した 8 番が先制点を奪った。

勢いに乗った札幌ジュニアは、高い位置でボールを何度も奪いフィニッシュまで行ったが、コンサ U-11 のゴールネットをゆらすことができなかった。

前半途中、両チーム共にコーナーキックのチャンスを得たが、どちらもチャンスを活かすきれず、一進一退の攻防が続いた。

前半終了間際、コンサドーレは 29 番がオーバーラップし中央突破して 1 枚はがしたところに札幌ジュニア 10 番がプレスバックしてボールを奪った。しかしこのプレーがファールになり、コンサドーレは直接フリーキックのチャンスを得た。およそ 20 m の直接 FK に 29 番が強烈なシュートを放つがゴールの枠を外れ、前半終了。

後半開始早々、札幌ジュニア 10 番が右サイドの高い位置でインターセプトし、そのままペナルティーエリア内に侵入してシュートを試みるがミートせずゴールキーパーがキャッチ。

後半 4 分、札幌ジュニア 9 番がピッチ中央でボールを奪い素早く右サイド 10 番にスルーパス。10 番はダイレクトでクロスを上げてフリーになっていた 7 番が追加点を決めた。札幌ジュニアはその後も運動量が下がることなく、前半同様に前線からのハイプレッシャーで相手の攻撃を高い位置で遮断する。コンサドーレ札幌 U-11 も負けずにすぐにボールを奪い返し、両者の攻防は続いた。

後半 10 分ころには札幌ジュニアのプレッシャーが少しずつ緩くなり、コンサドーレは華麗なパス回しで反撃。ペナルティーエリア手前まで行くことはできたが、それ以上は札幌ジュニアの鉄壁の守りにあつて得点することができず、2対0で試合が終了。札幌ジュニアが全道大会への切符を手に入れた。



7月2日(日) 東雁来公園・西 Cブロック		
札幌藻南 FC	FC Kitago PIVO アズベルデ	
0	0-0 0-2	2

曇り空の下、Cブロック代表決定戦は、札幌藻南 FC のキックオフで始まる。まずは藻南 8 番が勢い良く仕掛けるも相手 DF に阻まれる。続いて FC Kitago も中央でのドリブルから前線へのスルーパスを出す。これは惜しくもオフサイドとなる。

その後、藻南 FC は中央を起点にパスを繋ぎチャンスをつくる。それに対して FC Kitago は、13 番が再三左サイドをドリブルで駆け上がりシュート。さらにセンターリングでゴールに迫るも得点することができない。互いに譲らず一進一退の攻防が続く。

前半 10 分を過ぎて、藻南 FC は流れを変えようと左サイド 3 番から右サイド 9 番へ大きくサイドチェンジ。強烈なシュートを放つが惜しくもゴール左上に逸れて得点とはならず。FC Kitago も負けじと 11 番が右サイドを駆け上がり中央にセンターリング。13 番が合わせるも相手ゴールキーパーのナイスセーブに阻まれる。互いに一步も譲らないまま前半終了。

後半開始早々、FC 藻南は DF ラインからパスを繋ぎ 10 番がシュートを打つが惜しくもキーパー正面。

試合が動いたのは後半開始 2 分、Kitago 13 番が中央から右に流れるドリブルで相手をかましシュートする。ボールはゴール右上に突き刺さり、見事に先制点を奪う。勢いづいた FC Kitago は、左からは 13 番、右からは 11 番が再三にわたりチャンスを作る。しかし、藻南 FC はゴールキーパーのナイスプレーなどで追加点を許さなかった。そして、藻南 FC も相手ゴールキーパーのミスキックを奪ってシュート。これはバーの上に外れ同点とはならなかった。

一進一退の攻防戦が続く中、後半 5 分、FC Kitago 11 番が中央から駆け上がり前線の 14 番へパス。シュートコースを防ごうと相手ゴールキーパーが前に出たところを 11 番にリターンパス。11 番はそのまま無人のゴールへシュートし、追加点となった。

その後怒涛の攻撃を仕掛ける藻南 FC であったが、最後まで冷静なプレーで凌いだ FC Kitago に軍配が上がり、見事に全道大会の切符を手に入れた



7月2日(日) 江別美原グラウンドDブロック

FC リベルタ豊平

真栄

3

1-0

2-0

0

風上の FC リベルタ豊平のキックオフで試合は開始された。そして、リベルタ豊平 8 番がゴール前に持ち込み最初のシュートをする。

3 分、リベルタ豊平はパス交換から右サイドでフリーになった 10 番がふわりとしたロングシュートを試みる。ボールは前に出ていた真栄のゴールキーパーの頭上を越えてゴールイン。先制点を奪う。

5 分、真栄もコーナーキックからのチャンスを得るが得点することができなかった。その後、真栄は 11 番 6 番を中心に高い位置からプレスをかけて相手を苦しめ、ボールを奪うと両サイドに展開し攻勢に出た。それに対してリベルタ豊平は、真栄のパスをカットして素直にサイドにパスを回して前線の 8 番と 10 番につなぎ、相手のペナルティーエリア近くからのシュートを試みた。

12 分、真栄 13 番は単独で中央からの突破に成功してシュート、しかしゴールキーパーにビッグセーブされた。真栄 5 番も相手からボールを奪ってロングシュートするが惜しくもゴールキーパーの正面に行ってしまった。リベルタ豊平はたびたび右サイドから中央 5 番につなぎシュートをねらうが、真栄ディフェンス陣は粘り強くこれを防いだ。

後半、立ち上がり風上に回った真栄は、中央からサイドにボールを展開して攻勢をかけ、トップ 13 番と 5 番はボールキープから何度も相手ゴールに迫った。しかし、リベルタ豊平の守備陣は 5 番 7 番を中心に冷静なプレーで相手を阻み得点を許さなかった。

29 分、リベルタ豊平 8 番は 5 番のヘディングから浮き球のパスをもらい冷静にシュートを決めた。

30 分、真栄は再三相手のペナルティーエリアにボールを持ち込むが、リベルタ豊平は真栄 13 番から 3 人がかりでボールを奪い、パスを前線につないだ。

34 分、リベルタ豊平 8 番は右サイドから自らのドリブルで抜け出しペナルティーエリアの外から豪快にシュート。3 点目のゴールを決めた。

37 分、真栄は立て続けにコーナーキックを得るが、5 番のヘディング、8 番のシュートはキーパーのナイスセーブにより阻まれた。

FC リベルタ豊平が、3 対 0 で真栄を破り、全道大会に駒を進めた。



7月2日(日) SSSグラウンド Eブロック		
SSS 札幌サッカースクール	Rugart FC	
1	0-0 1-0	0

7月2日(日)東雁来公園 西 Fブロック		
FC TIPS	花川南イレブン	
1	1-1 0-0	1

強い日差しが照りつける中、午前 10 時に、SSS 札幌対 Rugart FC の試合がキックオフされた。

SSS 札幌は、最終ラインから丁寧にボールを保持しながら、サイドを起点に攻撃を構築。Rugart FC は、前線からのプレスを起点にショートカウンターを狙う。両チーム慎重なゲームの入りを見せる。

時間の経過とともに、徐々に SSS ペースの試合展開となる。MF7 番を中心に両サイド SDF が高い位置を取り、サイドのスペースを攻略。また、前線の FW50 番の個人技や巧みなポストプレーから、両サイド MF10 番と 8 番が中央のスペースを狙い、ゴール前まで前進するが、最後は Rugart FC が DF ラインを中心に身体を張って、ゴールを死守する。

対する Rugart FC は、右サイドを起点にシンプルに攻める。前半は 0-0 で、ハーフタイムを迎える。

後半、SSS 札幌のキックオフで試合開始。

開始早々 3 分に決定的なチャンスが訪れる。SSS 札幌の左コーナーから、7 番の質の高いボールがファーポスト付近のフリーの 10 番に渡るが、枠外に外す。その後も SSS 札幌の試合展開となり、再びコーナーキック。同じようなボールが 10 番に訪れ、きつちりとヘディングで合わせて先制点を決める。

その後も前半同様、SSS 札幌の時間帯が続くが、なかなか追加を奪えず。

Rugart FC は、18 番の個人技を中心に 1 点を取り返そうと全力で食らい付くが、ゴールに至らず、1 対 0 のまま試合終了のホイッスルが鳴り、SSS 札幌の全道大会出場が決まった。

両チーム共、最後まで全力プレーが出た素晴らしい試合となった。



午後 2 時、FC TIPS 対花川南イレブンの代表をかけた一戦が、花川南のキックオフで始まった。

開始 2 分、FC TIPS は右サイドからくずして中央にパスを通し、10 番が合わせて先制ゴールを決める。勢いに乗る FC TIPS は、4 分に相手ボールをパスカットした 10 番がそのままゴール前に持ち込みシュートするが、惜しくも枠を外してしまう。

6 分、花川南 8 番のシュートがポストに当たり 14 番がつめてゴール。花川が同点に追いつくことに成功した。

その後互いに譲らず膠着状態が続く。19 分に FC TIPS のコーナーキックのチャンスも得点にはならず、前半が終了した。

後半、最初にチャンスを迎えたのは FC TIPS で、9 番から 11 番にパスを通してシュートまでいくが、惜しくもゴールを外れてしまう。

25 分、FC TIPS は右サイドの 9 番から中に折り返しシュートまで行くが、これも得点することはできない。27 分、28 分と TIPS がチャンスを作るが、花川南のゴールキーパーに防がれてしまう。

31 分、なかなかチャンスを作れない花川南だったが、相手のパスをカットしペナルティーエリアに持ち込むがシュートすることまではできなかった。互いに勝ち越せない時間時間が続く。

35 分、FC TIPS 9 番から中へ繋ぎ 11 番がシュートするが、またも花川南ゴールキーパーにキャチされてしまう。また、花川南も 8 番から中央に折り返し、14 番がシュートを打つが枠を外してしまう。

39 分、FC TIPS のコーナーキックのチャンス。12 番から良いボールがゴール前に入るも花川南ゴールキーパーにパンチングされ、後半終了。延長戦に突入した。

延長戦になっても、FC TIPS ペースで試合が進みチャンスを作るが、得点することができなかった。対する花川南もチャンスを作ろうとするが、疲れか

らかパスミスが目立ちチャンスを作ることができなかつた。両チームともに決勝点を奪えないまま延長戦が終了。

代表決定の行方は、PK戦にゆだねられ、3人すべてが決めたFC TIPSが全道への切符を獲得した。



7月2日(日) 東雁来公園 西 Gブロック		
FIBEA FC U-12	ジュントスSC	
6	2-1 4-0	1

曇り空の下、Gブロック代表決定戦は、FIBEA FC U-12のキックオフで試合が始まる。まずはジュントス8番が中央をドリブルで抜けシュートを打とうとするも相手DFのカットに阻まれる。続いてはFIBRAのCB51番と62番が華麗なテクニックとパスワークで相手陣内に切り込むもDFに阻まれる。

試合が動いたのは前半3分、ジュントス7番が中央を抜け出しゴール右上にシュートを叩き込み先制点を奪う。しかしFIBRAも負けていない。すぐさま立て直し54番が中央をフェイントで切り込み放ったグラウンダーシュートは相手GKの股をすり抜け同点弾となる。

その後FIBRAは、51番を起点とした華麗な個人技とスピードで相手陣内へと切り込み、ジュントスの固いDFの隙間を抜けてゴールに迫る。ジュントスも右サイドを7番がドリブルで駆け上がり中央10番へ、更に後ろに戻して3番がロングシュートする。ボールはゴール枠内へ飛ぶが惜しくも相手GKのナイスセーブに阻まれる。

一進一退の攻防戦が繰り広げられ、このまま前半戦が終わるかと思われた残り数秒、FIBRA18番が左サイドから中央へ流れてシュートする。ショートバウンドしたボールはGKの股を抜け追加点となった。

ジュントスのキックオフで後半戦が始まる。追加点を奪われたジュントス、開始早々ロングシュートを放つも相手GKがしっかりとキャッチ。

後半2分、早々に試合は動く。FIBRA18番が中央をフェイントで相手DFの間を縫うように抜け出しそのままシュート。3点目となるゴールを決める。

しかし、ジュントスも負けてはいない。7番は中央を抜け出しシュートする。8番はロングフィードからチャンスをつくり、相手ゴールに迫る。しかし、得点にはつながらない。

そんな中、FIBRA58番が中央ペナルティーエリア内にドリブルで切り込み4点目のゴールを決める。続いて18番がハーフライン中央付近からドリブルで駆け上がり5点目のゴールを決め、ハットトリックを達成する。更に華麗なフェイントで相手を翻弄し6点目も上げた。

ジュントスも最後まで必死にボールを奪いにかかるが、後半終了の笛が響き渡る。

Gブロック決勝はFIBRAが、6対1で見事全道大会の切符を手に入れた。



7月2日(日) SSSサッカー場 Hブロック		
北海道コンサドーレ 札幌 U-12	SSS サッカースクール コラソン	
3	1-1 2-0	1

SSS のキックオフで開始された前半、コンサドーレ札幌が両サイドを丁寧に使った攻撃を展開しチャンス数を多く作るものの、ややシュートの精度に欠けていた。しかし、素早い攻守の切り替えによりボールを奪い、マイボールの時間を長くすることで相手に攻撃させない展開が続いた。一方、SSS コラソンはショートカウンターを狙う展開となった。

3分、コンサドーレ 9番がロングシュートを放つも、SSS の GK がキャッチ。6分、コンサドーレ 17番が右サイドを深く駆け上がりクロスを送るが、SSS がクリアする。7分、コンサドーレ 2番がロングシュートを放つが、ゴール左に外れる。9分、SSS13番がロングシュートを放つが、ゴール上に外れる。12分、コンサドーレ 9番が左から鋭いドリブルでカットインしそのままシュートを打つが、ゴール右にそれる。

そんな中で13分、コンサドーレの左コーナーキックの後、ゴール前の混戦からコンサドーレ 13番がヘディングシュートを決め先制する。

一方、16分、SSS38番が右サイドから鋭いドリブルのカットインからシュートを放つが、コンサの DF に当たりゴール前にこぼれる。しかし、そのボールを SSS17番は冷静にシュートを打ち、ゴールを決める。

後半はコンサドーレのキックオフで開始された。

コンサドーレは、システム変更に加え、選手を入れ替えることで両サイドに加えて中央を効果的に使い、バランス良く攻撃しボールを保持しながらゴールに迫った。マイボールの時間を長くすることで結果的にほぼ SSS に攻撃をさせないことに成功した。

24分、コンサドーレは右からの CK でシュートまで持ち込むが、左ポストに直撃する。

28分、コンサドーレ 13番が中央からのシュートを決めて、2対1とし、再びリードする。

さらに 37分コンサドーレ 8番のロングシュートがゴール上に突き刺さり、勝利を決定づけた。



7月2日(日) 東雁来公園 西 Iブロック		
FC DENOVA 札幌	NORTE 札幌 FC U-12	
14	5-0 9-0	0

天気は曇り。DENOVA のキックオフで試合開始。

開始30秒 DENOVA 9番が中央から左にサイドチェンジ、そのボールを正確にトラップした7番が先制ゴールを決める。5分には DENOVA 9番が右サイドからドリブルでうち込んでシュートを決め早くも2点目。

6分 NORTE キーパーからのボールが DENOVA ディフェンスの裏に入り、そこに出たボールを NORTE 8番がシュートを狙うもゴール右ポストにはずれ得点ならず。

8分 DENOVA 7番が右サイドから左サイドにいた9番にサイドチェンジ、そのボールを中央にいた5番に折り返しゴールを決める。9分にも DENOVA 7番のコーナーキックを5番が頭で合わせ4点目をあげる。

15分 NORTE 15番が右サイドからゴールを狙うもキーパーに阻まれ得点ならず。18分には8番が中央からドリブルで DENOVA 8番、10番を次々とかわしゴールに迫るも得点ならず。

19分 DENOVA が左サイドからのボールを13番が折り返してゴールを決め、前半終了。

後半は NORTE のキックオフで試合開始。

立ち上がり2分 DENOVA 右サイド13番から中央にかけ上がった11番にパスがつながりシュートを決め後半も DENOVA のペース。

4分 右サイド13番から中央に入り込んできた7番にパス、そのボールをドリブルで持ち込みゴールを決める。5分には右サイドにいた10番から中11番にパス、その後右サイドに走りこんでいた7番へパスがわたりシュート。NORTEキーパーにファインセーブされるも、ゴール前につめていた9番がゴールを決める。6分にもDENOVA右コーナーキックのチャンス。11番の蹴ったボールが中央に入り10番がヘディングでゴールを決める。

13分 NORTE11番がキーパーからのボール受け、ディフェンスの裏に抜けゴールを狙うもDENOVAキーパーにはじかれ得点ならず。

15分 NORTEディフェンスラインの裏に出たボールをDENOVA9番がキーパーと1対1の局面でキーパーをかわしゴールを決める。16分にもDENOVA9番からのスルーパスを10番が受け、キーパーをかわしてシュートを決める。17分にはDENOVA9番がゴール前でシュートを狙うがNORTEキーパーがファインセーブを見せボールを弾く。しかし、そこに詰めていた10番が落ちて着いてゴールを決める。18分DENOVA10番が中央からボールを持ち込み、パスを受けた9番が抜け出しゴールを決める。

DENOVAの圧倒的な攻撃力が発揮された決勝戦となった。



7月2日(日) 東雁来公園 西 Jブロック		
西野第二	篠路 FC	
1	1-0 0-0	0

ロバパンカップ全道大会出場経験がある西野第二と初出場を目指す篠路FCとの代表決定戦です。

キックオフ開始早々から両チームの激しいボールの奪い合いでゲームが進みます。

やや押し気味にボールキープをして試合の主導権を握る西野第二、かたやディフェンスラインを固め相手の攻撃を必死に凌ぐ篠路。

試合が動いたのは前半13分、西野第二の10番がセンターサークル付近から左サイドへ展開し、19番が受けペナルティーエリアへドリブルで持ち込みそのままシュート。篠路GKも反応するも、ボールはゴールネットを揺らし西野第二が先制点を挙げた。

先制された篠路FCもボールをサイドへ展開し相手ペナルティーエリアへ持ち込むもなかなかシュートまでいかず前半を終了する。

逆転を目指しいざ後半。相手陣地へボールを持ち込み同点を狙う篠路FC。西野第二も10番を中心にボールを両サイドへ展開しゴール前まで持ち込み折り返しに合わせるが、篠路の固いDF陣の守りに阻まれ追加点が取れない時間が続く。

後半10分、西野第二のコーナーキック。19番から17番へ渡りボレーシュートをしたがゴールの枠をとらえることが出来ず、鉄壁の守りの篠路FCと攻めの西野第二の構図が続く。

後半残り2分、攻めの西野第二13番がペナルティーエリア前で倒されフリーキックを得る。ゴール前で壁を作り追加点をしのぎたい篠路FC。西野第二13番がキックするも惜しくもゴールの枠をはずす。

篠路FCは、ゴールキックからラストチャンスを作りゴールエリアまで持ち込むも、西野第二は全員で守り、試合終了の笛が鳴り、西野第二が全道大会の切符を手にした。

1点が遠かった篠路FCですが全員での守りは印象深かった試合でした。西野第二の攻撃は両サイドを展開し個人技も優れておりました全道大会でも上位を狙えるダークホースになってほしいです。